

北海道における施設園芸の現状とめざす方向 (北海道次世代施設園芸推進事業)

目指す将来像

道の取り組み

- ①養液栽培（植物工場）に関する普及啓発
- ②新規参入者・企業誘致などの促進、雇用拡大による地域の活性化
- ③技術指導の担い手となる普及指導員への研修
- ④実証展示による試験研究機関のサポート体制の整備

本道を高度施設園芸 (養液栽培等)の一大産地へ

- I 技術・人材の集積により、寒冷地における、ICTなど先端技術を活用した農業生産技術の確立
- II 施設園芸農業の新たな担い手の育成
- III 周年・安定供給できる大規模植物工場の全道展開

現状

- ・北海道の施設園芸は全国の6%程度
(H25園芸用施設及び農業用廃プラスチックに関する調査(農林水産省))
- ・植物工場は点の存在
平成28年2月末現在 11カ所
※太陽光利用型の施設は施設面積が概ね1ha以上で養液栽培装置を有する施設に限定
(H27次世代施設園芸導入加速化支援事業(全国推進事業)報告書(日本施設園芸協会))

北海道の優位性を最大限活用

- ①土地が広く、地価も安いなど設置場所の確保の面で優位
- ②夏季に冷涼な気候
- ③台風の被害が少ない
- ④日照時間や日射量は、道外と比べて遜色ない地域がある
- ⑤地中熱、地熱、温泉熱、雪氷熱、農林業で生まれるバイオマス(木質、家畜糞尿など)など、利用の可能性を秘めたエネルギーが存在